

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

天皇盃 皇后盃 内閣総理大臣杯
第53回全日本空手道選手権大会



各部門の優勝者。(左から) 女子個人形・三島、男子個人形・本、男子個人組手・阿部、女子個人組手・崎山

第4回全日本空手道団体形選手権大会



女子団体形優勝・帝京チーム (左から) 鈴木、小林、佐藤、岡本



男子団体形優勝・全空連推薦 (左から) 北澤、菊池、岡本

シンガポール共和国派遣日本武道代表团 言葉の壁を越えた武道交流



武道演武大会会場（シンガポール・スポーツ・ハブOCBCアリーナ）での代表团記念撮影



①

① シンガポール日本人学校チャング校での武道交流演武会（合気道演武）
 シンガポール表敬訪問（川端団長（右）とアラン・ゴージェ）
 タイプ・センターでの武道文化セミナー（相撲演武）



②



③



武道演武大会での空手道ワークショップ

代表団は川端達夫日本武道館理事長を団長とし、現代武道9種目（柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道）と古武道3流派（北辰一刀流、剣術、宝蔵院流高田派槍術、沖繩剛柔流武術）、プロジェクト事務局等の総勢69名で構成。シンガポール日本人学校チャング校での武道交流演武会や武道文化セミナー、武道演武大会、ワークショップなどを通じて多くのシンガポールの人々に武道の魅力を発信した。

日本武道館と日本武道協議会は、令和7年度日本武道代表団を昨年11月26日から12月2日までの7日間、シンガポール共和国に派遣した。本派遣事業は、2025年にシンガポールが独立60周年を迎えるのを機に、また、2026年に日本・シンガポール外交関係樹立60周年を迎える記念事業として、スポーツ・シンガポールの招聘を受け日本武道の真髄を披露するとともに、武道の国際的理解と普及振興を図り、併せて両国の友好親善に寄与することを目的として実施された。

11月26日 結団式・壮行会



乾杯の発声を行う市野保己
 全日本銃剣道連盟副会長（右）

午後1時より空港直結のベルサー
 ル羽田空港（東京都大田区）におい
 て、団員のほか、高村正彦日本武道
 館会長、日本武道協議会役員、各武
 道連盟代表者出席のもと行われた。
 はじめに団員全員を呼称して代表
 団を結団。次に高村会長が「この日
 本武道代表团は、一流の指導者や選
 手によって構成されていますので、
 必ずやシンガポールにおいて武道の
 真髄を示していただけだと思ってお
 りますし、シンガポールの人たちの
 魂を揺さぶっていただけだと思いま
 す。また、そのことにより両国の関

係がさらに良くなることを確信して
 おります」と壮行の言葉を述べた。
 これを受けて川端団長が「本派遣事
 業の立ち上げ当初は、国際的な組織
 を持つ日本武道協議会加盟の武道団
 体は一部でありましたが、各団体の
 ご努力により今やすべての種目の団
 体が国際的な組織を持ち活発に活動
 されていることは大変ありがたく思
 います。シンガポールと日本の関係
 は極めて友好的であります。改め
 て皆さんの演武によってシンガポー
 ルの国民、とりわけ青少年に日本武
 道の技と精神を伝え、友好親善を深
 めることができればと考えます」と
 挨拶し、代表团としての目的・責務
 を果たすことを誓った。

その後、市野保己全日本銃剣道連
 盟副会長の発声で乾杯を行い、歓談
 に移った。各武道連盟の代表出席者
 が団員に激励の言葉をかけたり、団
 員同士で挨拶や自己紹介をするな
 ど、出発前の和やかな時を過ごした。

終了後、団員は空港第3ターミナ
 ルに移動し、午後4時40分発のシン
 ガポール航空633便で日本を出発。約
 8時間のフライトを経て午後11時20

分（現地時間、以下同様）にシンガ
 ポール・チャンギ国際空港に到着し
 た。その後、一行はバスで宿泊先の
 ヨークホテルに向かい翌27日の午前
 1時近くに到着。このまま就寝とな
 った。

11月27日 武道交流演武会

シンガポール日本人学校チャンギ
 校での武道交流演武会のため、団員
 はバスで午前8時にホテルを出発。
 朝の交通渋滞も思いのほかスムーズ
 で、40分ほどで学校に到着し、会場
 となる体育館でリハーサルを行っ
 た。短い準備時間ではあったが、団
 員同士で話し合い、演武内容を変更
 するなどより良く見せる工夫を行う
 様子が見られた。

今回、本交流演武会の実現に協力
 をいただいた同校は、全校生徒550名
 ほどの規模であるが、学校側の児童
 全員を参加させたいとの希望によ
 り、午前と午後の2回に分け、児童
 を入れ替えて実施することになっ
 た。

午前部の部の開始時刻が近づくと、

前の授業を終えた児童がクラスごと
 に体育館に集まり始め、武道ごとに
 特色のある道着姿や和服姿、相撲の
 まわし姿を目にすると、始まる前か
 ら興味津々の様子であった。午前10
 時20分、開会式は松越正純校長の歓
 迎の言葉で始まり、川端団長が主催
 者挨拶として「日本の伝統文化であ
 る武道は、他のスポーツとどのよう
 なところが異なるか、どのような特
 徴があるか、よく見て、考えてみて
 ください」と挨拶を述べた。最後に
 武道代表团から記念品や武道関連書
 籍、剣道具を贈呈した。

演武は畳と床（マット）の2種目
 同時で進行し、異なる種類の技術が
 次々と繰り広げられた。児童は静か
 にかつ真剣に見学しながらも、日本
 剣道形の演武で模擬刀を使用する場
 面や、空手道の演武で団体形分解の
 激しい攻防の場面では、子どもらし
 い純粋なりアクションでワツと賑わ
 いが生じた。

演武の途中には、児童代表者数名
 による武道体験として、なぎなたや
 宝蔵院流高田派槍術で独特の長い武
 具の扱い方を教わったり、柔道や相



固唾（かたず）をのんで演武を見学する児童（左：空手道、右：少林寺拳法）



松越正純シンガポール日本人学校
チャンギ校校長（左）に記念品を
贈呈



武道体験：宝蔵院流高田派槍術



武道体験：なぎなた



武道体験：柔道



武道体験：相撲

午後6時30分より日本国大使館主
権の日星（シンガポール）交流武
道レセプションが大使公邸で開かれ
た。

はじめに石川浩司駐シンガポール

日星交流武道 レセプション

なお、休憩時間には大勢の児童が
団員のもとに集まり、話をしたりサ
インを求める場面もあり、武道演武
が子どもたちの心に響いたことを感
じることができた一幕であった。

午後1時からの午後の部では、開
会式で嶋田信子団員（なぎなた）が
代表して挨拶。午前と同様の盛り上
がりのなか時間は過ぎ、最後に5年
生の加藤花さんが児童代表として感
想を、中森清徳団員（少林寺拳法）
が団員代表として挨拶した。

撲で団員を相手に技をかけることを
体験した。
すべての演武と武道体験が終わる
と、6年生吉良湊さんが児童代表と
して感想を述べ、最後に渡邊英史団
員（弓道）が団員代表として挨拶し、
午前の部は終了した。



シンガポール柔道連盟と交流を深める
 柔道の団員

日本国特命全権大使が「皆様のご尽力によりシンガポールの各地に武道の道場が設けられ多くの人が稽古に励んでいることを誇りに思います。武道の精神はシンガポールでも多くの人に受け入れられ、両国の友情と理解を支える大きな柱となっております。今回の日本武道代表団の訪問は、この歓迎の潮流をさらに加速させるものと確信しております」と歓迎の言葉を述べた。続いて川端団長が歓迎に対するお礼を述べて記念品を贈呈。歓談が始まると、団員はシンガポールの武道団体関係者やスポーツ関係者と交流を深めた。



歓迎の挨拶を行うアラン・ゴ CEO (中央右)

川端団長と各道・各流派の代表者は、スポーツ・シンガポールを表敬訪問した。スポーツ・シンガポールはシンガポールの文化・社会・青年省が所管するスポーツ政策を担う機関である。はじめにアラン・ゴ CEO が「日本から友人をお迎えすることを嬉しく思います。日本はスポーツ文化が進んでいるので、学ばせていただきたいと考えています。今回の訪問が皆様にとっても役立つことを願っています」と挨拶。



プレゼンテーションと質疑応答

続いて川端団長が表敬訪問のお礼を述べて記念品を贈呈した。次に同機関の Dr.ロウ・チー・ヨン氏よりシンガポールにおけるハイ・パフォーマンス・スポーツ政策についてプレゼンテーションが行われ、質疑応答では若年層の育成などについて意見が交わされた。そして同機関のラボラトリー（研究施設）を案内され、各方面からアスリートの競技力向上にアプローチするためのさまざまな最新施設の設備を見学、それぞれについて説明を受けて表敬訪問は終了した。



研究施設を見学する団員代表者

この日の夜は、ジャパン・クリエィティブ・センターとの共催で同施設において「武道文化セミナー」を開催した。同センターは日本国大使館の文化発信施設であり、展示や講演などのイベントが日々開かれている。運動用の施設ではないため演武スペースや条件は限られるが、今回、メイン展示室に畳9枚を敷き、講演に加えて全種目の演武を短時間ながら披露することにした。

演武者は各道・各流派2名ほどで、諸条件をあらかじめ伝えていたため、各演武者は演武内容の検討を重ねて臨んだ。開会2時間前となる午後4時30分、講演・演武を行う団員が会場に到着。1種目ずつリハーサルを行い、最終調整を行った。この間シンガポールらしくスコールとなり、このような天気慣れないわれわれ日本人は来場予定者（事前申し込み制）の足が遠のくのではないかと心配したが、セミナーが始まる午後6

11月28日 表敬訪問

武道文化セミナー



巻藁（まきわら）を使用した弓道演武



講演を行う恩田浩司団員（剣道）



河邊章子ジャパン・クリエイティブ・センター所長による挨拶



熱心に質問を行う参加者



沖縄剛柔流武術の演武



北辰一刀流剣術の演武

時30分には用意した50席はほぼ埋まった。武道修行者らしき人から、両親と一緒に来た小さな子ども、高齢の女性まで、多様な人々が見受けられ、このセミナーに興味を持っていただいていることがよくわかった。開会にあたり、河邊章子同センター所長と川端団長が挨拶を述べ、続いて剣道の恩田浩司団員（範士八段）が講演を行った。恩田団員は武道の心・精神、剣道の特性、江戸の三大道場の教えなどを通じて、自身の経験を交えながら、伝統文化としての武道について語った。

講演が終わると演武に移った。1種目約3分間ずつ、次々と登場するさまざまな技を観客は間近で目にし、迫力を感じている様子であった。また弓や槍など、普段目にすることのない武具を用いた演武では、スマートフォンで撮影する参加者の姿も多く見られた。

すべての演武終了後には全種目の演武者が登壇。質疑応答が行われると、個別の武道種目に関する質問や武道全般に関する質問があり、関心の高さがうかがわれた。

11月29日 交流稽古会

この日は、代表団全体の行動はなく、シンガポールに連盟や支部等の関係団体がある柔道、剣道、弓道、空手道、合気道、少林寺拳法、沖縄剛柔流武術の団員は、計画した交流指導稽古をそれぞれ実施した。

また、武道演武大会会場のシンガポール・スポーツ・ハブOCBCアリーナでは、翌日に向けた会場準備が進められた。

11月30日 武道演武大会

本派遣事業のメインイベントである武道演武大会の日を迎えた。午後1時の開会に向けて団員は午前9時にホテルを出発し、会場であるシンガポール・スポーツ・ハブOCBCアリーナに向かった。ここはシンガポールナショナルスタジアムに併設されたスポーツ施設で、複数面あるホールの一部である。

はじめに開会式や閉会式の整列方、演武の入退場動線、ワークシ

■開会式



武道演武大会の会場となったシンガポール・スポーツ・ハブOCBCアリーナ



石川浩司駐シンガポール
日本国特命全権大使



川端達夫
日本武道代表团団長

■武道演武



北辰一刀流剣術



弓道



相撲



銃剣道



柔道

プの実施場所などを全員で確認した後、各種目の演武リハーサルに移った。団員は入念に演武内容を確認し、本番に備えた。

開会1時間前の正午に開場したところ、観客の出足は思わしくなく、開会後の入場を期待しながら午後1時の開会を迎えることになった。

開会式では、はじめに石川駐シンガポール日本国特命全権大使が「日本武道代表団の今回の来訪、そして本日の武道演武大会やワークショップは、来年の日本・シンガポール外交関係樹立60周年記念事業への機運を高める上で重要な意味を持つものです。なぜなら、あらゆる分野に体现されている日本の美德と魅力の真髄は、武道の精神に凝縮されているからです。本日武道を体験することから、日本の伝統の真髄を感じ、来年の記念事業をより深く楽しむことができるでしょう」と歓迎の挨拶が述べられた。続いて主催者として川端団長が「武道は心身ともに逞しい立派な人間を育てる人間教育の道として、日本の伝統的な運動文化として、日本国民に愛好されています。



なぎなた



沖縄剛柔流武術



剣道



宝蔵院流高田派槍術



少林寺拳法



合気道



■ 武道体験



空手道

他のスポーツと異なるこの武道の『道』としての面は、世界の人々をも魅了しています。本日演武を披露する日本武道代表団のメンバーは、いずれも一流の指導者や選手です。磨き抜かれた技を披露しますので、ぜひ皆さまに日本武道の魅力を感じていただきたいと思います」と挨拶を述べた。

また、観客は開会式の間も途絶えず入り続け、演武が始まる頃にはだいぶ増えていた。現地在住の方によると、シンガポールでは「集合がゆっくりにあることを聞き、少し安堵する」とともに、さらなる来場を期待しながら弓道の演武から始まった。静まる会場で放たれた矢が、会場の端から端まで駆け抜けた音が響くと、大きな拍手が送られた。その後、北辰一刀流剣術、柔道、銃剣道、相撲、剣道と演武が進行。こちらも国民性なのか観客の反応は比較的控えめで、開場は凛とした空気に包まれていた。打突や踏み込み、受け身や身体のおつかり合い、気合などの音が際立ち、武道らしい雰囲気を感じられる環境と

■ ワークショップ



なった。

前半の演武が終わったところで、会場内の子どもたちが剣道と相撲にチャレンジしたところ、小さな身体で団員に一生懸命向かっていく姿は微笑ましく、和やかな時間となった。また、この頃には観客も1000人ほどに達していた。

後半の演武が沖繩剛柔流武術から始まると、さきほどのチャレンジコーナーから一転、ふたたび会場は静まり、観客は真剣に団員の二拳手一投足に見入っていた。その後、なぎなた、合気道、少林寺拳法、宝蔵院流高田派槍術と続き、空手道で締めくくった。

すべての演武が終わり、いったん演武大会を閉会。会場内を12のエリアに区切ってワークショップを開始すると、いずれの武道にも大人から子どもまで体験を希望する参加者が大勢集まった。団員も言葉の壁を越えて身振り手振りを交えながら手ほどきし、参加者はみな笑顔で武道の世界を堪能した様子であった。

※本大会のアンケート調査結果を130〜131ページに掲載しています。

フェアウェルパーティー

武道演武大会の成功を祝い、また、本派遣事業に協力いただいた現地関係者への感謝を表すため、来賓として後援団体であるシンガポール日本商工会議所・江口大二郎副会長をはじめ、7種目・流派の現地連盟・支部の代表者らを招いてフェアウェルパーティーを行った。川端団長の挨拶の後、自身も剣道修行者でシンガポール剣道ナショナルチームのコーチでもある江口副会長が、シンガポールの剣道事情の話を交えながら「これを機にシンガポールでますます武道が発展し、多くの方が武道を始めてくれることを願います」と挨拶して乾杯。参加者は国境を越えて武道談議に花を咲かせた。



江口大二郎シンガポール日本商工会議所副会長(右)に記念品を贈呈

12月1日 解団式

夜の解団式まで自由行動となった。シンガポールは地下鉄がはりめぐらされていて、有名な観光名所などにも簡単にアクセスできるため、団員は思い思いの時間を過ごした。

午後6時から、チャイナタウンのレストランで解団式を実施。団員は食事をしながらこの1週間の労をねぎらい、思い出を語り合いながら和気藹々とした解団式となった

12月2日 帰国

早朝の午前5時、まだ暗いなかホテルを出発し、バスで空港に向かった。お世話になった現地ガイドに別れを告げ、午前8時発のシンガポール航空632便に搭乗した。突然の大雨により1時間ほど飛行機の出発が遅れるアクシデントに見舞われたが、午後5時（日本時間）に羽田空港に到着し、団員はそれぞれ帰路に就いた。

（文責：日本武道館プロジェクト事務局 長瀬まり子）



市内視察
（マールライオン公園からの眺望）



解団式で団員を労う川端団長
（中央左）



武道演武大会の告知用看板を
挟んで記念撮影を行う団員ら

日本武道代表団団員一覧

【団長】川端達夫（日本武道館理事長）

【団長随員】川端富美子

【日本武道館プロジェクト事務局】中島昭博、
長瀬まり子、柿沼慧

【柔道】南波利治（七段）、菅太誠（六段）、金丸
雄介（六段）、佐藤和幸（六段）、岩本莉樹（参段）

【剣道】恩田浩司（範士八段）、中村隆信（教士八
段）、島田晃次（教士七段）、小田哲生（教士七段）、
渡邊陽介（教士七段）、斎藤諒（五段）

【弓道】渡邊英史（教士七段）、小原裕幸（教士七
段）、久野研太（錬士六段）、村川春圭（錬士六段）、
橋本隆志（錬士六段）、田中慶子（錬士五段）

【相撲】岩本真輝（三段）、與那覇大地（二段）、
島ノ江貴斗（二段）、田中太一（二段）、西谷祐輝（二
段）

【空手道】永井カンナ（初段）、堤さら（三段）、
大成輝波（二段）、藤田康紘（三段）、柴谷海（二
段）

【合気道】入江嘉信（七段位）、梅津翔（六段位）、
藤田すみれ（四段）、安藤裕史（参段）、野中力樹（三

段）、山本宗次郎（二段）

【少林寺拳法】中森清徳（准範士七段）、谷聡士（大
拳士六段）、森川春菜（正拳士五段）、森川千夏（正
拳士四段）、阿菰品泰輝（少拳士三段）、渡辺海
太（二段）

【なぎなた】嶋田信子（教士）、山根園子（錬士）、
安喰愛（錬士）、杉田洋子（五段）、阿部優子（四
段）、菊川愛理（三段）

【銃剣道】衛藤敬輔（教士八段）、竹添敬介（教士
八段）、井上善仁（教士八段）、寒河江正博（教
士八段）、大野裕美（教士七段）、石岡悠来（三段）

【北辰一刀流剣術】田中榮治（中目録）、兼子勝喜
（大目録）、桐原英夫（大目録）、小瀧徳行（中目録）

【宝蔵院流高田派槍術】駒喜多学（流派代表）、
西本昌永（免許皆伝）、富山忠和（免許）、西村
文男（免許）

【沖繩剛柔流武術】上原米和（師範・八段）、藏元
雅一（師範・八段）、米里吉則（師範・七段）、
新屋光（指導員・四段）

【記録】北原直哉

（敬称略）

第53回全日本空手道選手権大会

男子組手
阿部遥佑(学連)が初制覇



男子個人組手・決勝=阿部(左)が上段突きを決める

第53回全日本空手道選手権大会(主催)全日本空手道連盟)が昨年12月13・14日に東京武道館(13日)と日本武道館(14日)で開催された。また、第4回全日本空手道団体形選手権大会が同時開催された。

男子個人組手は、本大会2度目の出場の阿部遥佑(学連)が過去選手権大会で3連覇(2020、21、22年)を果たしている崎山優成(全空連推薦)との激闘を制し、初の栄冠に輝いた。女子個人組手は、前回大会準優勝の崎山紬(香川)が連覇を狙う小堂利奈(前年度優勝)にリベンジを果たし初優勝に輝いた。

男子個人形は、本一将(全空連推薦)が本大会3連覇中の西山走(前年度優勝)を決勝で下して悲願の初優勝を果たした。女子個人形は、三島きり(全実連)が尾野真歩(全空連推薦)との決勝を制し、初優勝を果たした。

男子団体形では、全空連推薦(前年度優勝)が同志社大(学連)に圧巻の演武で勝利し、連覇を果たした。女子団体形では帝京チームが、国士館大(学連)との決勝を制して、嬉しい初優勝を果たした。

男子個人組手

■決勝

阿部遥佑 7-5 崎山優成

準決勝で前回王者の嶋田力斗（前年度優勝）に勝利し、初の決勝進出を果たした阿部と崎山の一戦。

試合序盤、崎山が阿部から中段突きで先取点を奪う。一方の阿部は身長194cmから繰り出される長いリーチを生かした上段突きを軸に、冷静に試合を展開し、先取点を取られても



男子個人組手・準決勝①=阿部（右）が上段突きを決める



男子個人組手・準決勝②=崎山（右）对小崎

ポイントを立て続けに奪い返す。一進一退の攻防が続く中で試合開始2分25秒、崎山が上段蹴りを狙った際に体勢を崩し倒れると、阿部がその隙を見逃さず中段突きを決めて一本を奪う。その後も阿部の上段突きが冴えわたり、連続でポイントを取ると、追いつきたい崎山も試合終盤に中段蹴りで技有りを奪う。この技有り

で7-5まで追い上げた崎山であったが、その後ポイントは奪えず試合は終了。阿部が大学生ながら初の

王座に輝いた。

■準決勝①

阿部遥佑 9-1 嶋田力斗

阿部と嶋田の一戦は、阿部が上段突きを中心に嶋田に付け入る隙を全く与えない。なんとかポイントを取りたい嶋田であったが、阿部の長いリーチを前に攻めあぐねる。その後も阿部がポイントを重ね、スコアに8点差がついたため試合終了。前回王者相手に圧巻の試合を見せた阿部が勝ち上がった。

■準決勝②

崎山優成 1-0 小崎友基

崎山と小崎友基（全空連推薦）の顔合わせ。両者ともに相手の動きを警戒してか、なかなか技を出さず、こう着状態が続く。試合時間残り1秒ほどで崎山の上段突きが有効となり、ギリギリで先取する。小崎のカウンターの突きが有効であるかどうかのビデオレビュー（VR）が行われるも、ポイントは認められず、試合終了。緊迫した試合を崎山が鋭い突きで制した。

◎優勝II阿部遥佑選手（学連）



「実感はまだ湧かないですが、とにかく嬉しいです。」

（決勝は）先取点を取られた時はまづいと思いましたが、一つ一つ冷静にポイントを取ることができたのが良かったと思います。試合中盤の一本は、運が巡ってきたと思い、一瞬のチャンス逃さず決め切れたので良かったです。崎山選手は憧れの先輩で1、2年前は試合をするときに怖さを感じていましたが、昨年から一緒に練習させてもらい、勝てる可能性があると、自分に自信を持てたのが勝ちに繋がったと思います」



女子組手

崎山紬齋が雪辱果たす



女子個人組手・決勝=崎山(右)对小堂

女子個人組手

■決勝

崎山 紬 3-2 小堂利奈

初優勝を狙う崎山と連覇がかかっている小堂の前回大会決勝と同じ顔合わせ。前回大会では9-3で小堂が勝利している。

試合序盤から両者ともに慎重な姿勢をみせる。そのまま試合終盤まで互いに技を仕掛けるものの、相手を捉えきれない展開が続く。試合が動いたのは残り時間25秒、小堂が素早く間合いを詰めて上段突きを決め先取すると、続けざまに上段突きを決め2-0とする。残り時間約10秒、崎山が中段突きでポイントを奪うと、下がる小堂に対して間合いを詰めていき上段突きを繰り返す。下がった際に場外に出た小堂に対し注意が与えられると、累積で先取が取り消されると、残り4秒で試合が再開されると、直後に崎山が上段突きを決めてスコアはイーブンに。なおも試合時間は残り約2秒。両者の最後の攻防は、崎山が残り0・3秒で上段突きを決めて試合終了。崎山が熱戦を制し、昨年の雪辱を果たした。

■準決勝①

崎山 紬 5-2 武田蒼生

崎山と武田蒼生(大阪)の顔合わせ。試合中盤に武田が上段突きで有効を取り、先取する。その後も武田が上段突きを決めて2-0とする。その後には崎山が上段蹴りで一本を決めて逆転に成功する。残り時間が少なくなり、積極的に仕掛ける武田に対して、崎山が中段突きと上段突きを立て続けに決める。最終スコア5-2で試合は終了。崎山が2大会連続で決勝の舞台に進んだ。



女子個人組手・準決勝①=崎山(右)が上段蹴りを決める

■準決勝②

小堂利奈 判一 永井カンナ

小堂と第51回選手権大会で優勝経験のある永井カンナ（静岡）の一戦。試合はお互いに手数が少なく、慎重な試合運びをみせる。そのまま時間が経過していき、両者ポイントを取れないまま残り時間が15秒になると、小堂は突き、永井は蹴りで攻める。しかし、両者ポイントを取るにはいたらず試合は終了。旗判定の結果、小堂に軍配が上がった。



女子個人組手・準決勝②=小堂（左）対永井

◎優勝II 崎山紬選手（香川）



「優勝した瞬間は本当に信じられませんでした。いろいろな人にお祝いしてもらえてすごい嬉しい気持ちでいっぱいです。

（決勝は）最初に相手に取られる展開になりましたが、取り返す練習をしてきたので、特に焦ることなくできました。最後の有効は、自分の直感を信じて思い切り技を出せたことがいい結果に繋がったと思います。利奈先輩（小堂選手）と今年も同じ舞台上で戦うことができて嬉しかったですし、前回大会のリベンジを果たすことができてよかったです。初戦から動きも良かったですし、何より試合を楽しんでいたのが良かったと思います。大学に入学してからは親元を離れて、違う環境で空手をして悩む時期もありましたが、今回良い結果で終われて良かったです」

日本武道館の単行本



剣道の文化誌 明治大学教授 長尾 進 著
四六判・上製・480頁・定価2,640円

本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いながら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には剣道を改めて見直すきっかけとして、剣道をあまりご存知ない方には剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとして、ぜひ一読を。



剣道 その歴史と技法 埼玉大学名誉教授 大保木輝雄 著
四六判・上製・516頁・定価2,640円

本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るまでの剣道の歴史の発展の経緯を示した。戦国期以前の剣術の有り様を認識した上で改めて各時代の流れに沿った剣道史を考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後5年のときを経てついに単行本化。



柔道 その歴史と技法 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著
四六判・上製・330頁・定価2,640円

柔道の技法が、どのように形づくられてきたのかを、体術の起こり、柔術諸流派の歴史に遡り、丁寧にひもとく。さらには、全日本選手権やオリンピックをはじめとした各種競技大会にみられる技法を分析し、今後の課題を探る。



空手道 その歴史と技法 小山正辰・和田光二・嘉手苺徹 著
四六判・上製・568頁・定価2,640円

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇系剛柔流の小山正辰氏、首里系松浦館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苺徹氏の共同執筆で重層的に紐解く。嘉手苺氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長順の最新の事実、小山・和田の高世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一冊。



マンガ・日本武道風土記 漫画家・別府大学客員教授 田代しんたろう 著
B5判・並製・248頁・定価1,100円

全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界で日本各地をめぐってみては。



死ぬまで弓道 弓道教士七段 小牧佳世 著
四六判・上製・342頁・定価2,640円

競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その3カ月後に弓道を再開し、わずか2年後に皇后盃で十射晋中、優勝を果たした。本書では激動の自信を記し、弓のあり方や「早気」など弓道家の誰も「陥る課題」などを模索する。死の淵を脱ぎ、現在も全身全霊で弓を引き続ける筆者だからこそ記せた弓道伝記かつエッセイ

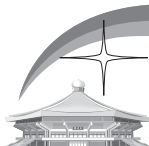


学校武道の歴史を辿る 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著
四六判・上製・354頁・定価2,640円

明治維新を迎え、武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度の中に組み込まれ、発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え、「格技」として復活。平成24年度には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。

ご注文・お問い合わせ

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



男子個人形

■決勝

○本一将 ガンカク 47・7点

西山走 スーパーリンペイ 47・0点

前回大会での準優勝をはじめ、これまで多くの入賞経験がある本と、4連覇を目指す西山の顔合わせ。先攻の西山は、3連覇とともに歩んだスーパーリンペイを披露。力強く気迫に満ち溢れた形で観客を魅了した。後攻の本は前回大会と同様にガンカクを演武。ガンカクの見せ場でもある片足で立つ「驚足立ち」を一

切のブレもなく、華麗に決め切る観客から大歓声を送られた。判定の結果、本がハイレベルな戦いを制し、悲願の初優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ本一将選手（全空連推薦）

「やっとこの大会で優勝することができました。この舞台でガンカクを打ち切れて良かったです。西山選手とは高校生の頃から勝つたり負けたりを繰り返してきました。一時期勝てないことが続いた時に、ライバルと思っていたのか悩んだ時もありましたが、またこうして勝つことができている嬉しいです」



男子個人形・優勝=本一将（ガンカク）

女子個人形

■決勝

○三島きり チャタンヤラ・クーサンクー 46・2点

尾野真歩 チャタンヤラ・クーサンクー 44・0点

準決勝で前回大会優勝の東佐江子（前年度優勝）との対決を制した三島と尾野の前回大会3位入賞者同士の顔合わせ。両者ともにチャタンヤラ・クーサンクーを選択した。先攻の三島は持ち前のキレと抜群のスピード感でチャタンヤラ・クーサンク



女子個人形・優勝=三島きり（チャタンヤラ・クーサンクー）

りの魅力を最大限に披露した。後攻の尾野は、技の一つ一つに丁寧さと力強さを感じさせる安定感抜群の形を演武した。判定の結果、三島が嬉しい初優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ三島きり選手（全実連）

「この素晴らしい舞台で優勝できてとても嬉しく思います。相手が誰でもあろうと自分のベストパフォーマンスを出すことを心掛けました。チャタンヤラ・クーサンクーは自分の持ち味であるキレとスピードがよく映える形だと思うので、さらに磨きをかけていきたいと思っています」

第4回全日本空手道団体形選手権大会

男子団体形

■決勝

○全空連推薦

ウンスー

46・5点

学連④(同志社大) アーナン

44・4点

連覇を目指す全空連推薦と同志社大の顔合わせ。

先攻の全空連推薦が一糸乱れぬ形を披露すると、団体形の特徴でもある「分解」では、氣迫溢れる演武で観客を魅了。見事連覇を果たした。



男子団体形・優勝=全空連推薦(ウンスー)

女子団体形

■決勝

○帝京チーム

ウンスー

45・8点

学連⑤(国士館大) トマリバツサイ

44・8点

初優勝を目指す帝京チームと大学としての連覇に期待がかかる国士館大の一戦。後攻の帝京チームはウンスーを披露。息のあったメリハリのあつた動きで圧巻の形を決めて、初優勝を手にした。



女子団体形・優勝=帝京チーム(ウンスー)

日本武道館の単行本



死ぬまで弓道 弓道教士七段 小牧佳世 著
四六判・上製・342頁・定価2640円

競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その8カ月後に弓道を再開し、わずか2年後に皇后盃で十射皆中、優勝を果たした。本書では激動の自信を記し、弓のあり方や「早気」など弓道家の誰もが陥る課題などを模索する。死の淵を覗き、現任も全身全霊で弓を引き続ける筆者だからこそ記した弓道伝記かつエッセイ集。



空手道 その歴史と技法 小山正辰・和田光二・嘉手苺徹 著
四六判・上製・548頁・定価2640円

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇系剛柔流の小山正辰氏、首里系松濤館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苺徹氏の共同執筆で趣味的に紐解く。舞手刃氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長順の最期の事実、小山・和田の両世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一冊。



マンガ・日本武道風土記 漫画家・明治大学実業教授 田代しんたろう 著
B5判・248頁・定価1100円

全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界で日本各地をめぐるみては。

ご注文・お問い合わせ

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



第42回若潮杯争奪武道大会

なぎなた・女子

龍光寺（東京・富士）が初優勝



なぎなた・女子決勝＝龍光寺（右）対佐藤

第42回若潮杯争奪武道大会（主催Ⅱ日本武道館、国際武道大学）が昨年12月25～27日に国際武道大学（千葉県勝浦市）で開催された。全国から選ばれた高校生が集い、初日になぎなた、2日目に剣道、最終日に柔道が行われ、激闘を繰り広げた。

■なぎなたの部（男子24名、女子47名）

男女ともに個人戦（1～3年生）が行われた。予選は3名によるリーグ戦で、各リーグの1位が決勝トーナメントに進出した。

男子決勝は、鈴木秀岳（埼玉栄）と沖村晴渡（山口・長府）が対戦し、

鈴木がメンを決めて一本勝ちで初優勝した。

女子決勝は、初優勝を狙う龍光寺真有（東京・富士）と前回大会優勝の佐藤さなみ（岡山・美作）が対戦。龍光寺がスネを決めて一本勝ちし、初優勝を飾った。



なぎなた男子入賞者



なぎなた女子入賞者



剣道・女子決勝（中堅戦）
八代白百合学園・武田絢葉（左）対筑紫台・川原那奈子



剣道・男子決勝（大将戦）
日章学園・倉部恵多（右）対奈良大学附属・木村溜汰



剣道男子優勝＝日章学園（宮崎）



剣道女子優勝＝八代白百合学園（熊本）

剣道・男子 日章学園（宮崎） が2回目の優勝

■剣道の部（男女各24チーム）

試合は男女ともに1・2年生による団体戦（5人制）が行われた。予選は3校によるリーグ戦で各リーグ1位による決勝トーナメントによって覇が競われた。

男子決勝は、日章学園（宮崎）と

奈良大学附属（奈良）が対戦。先鋒、次鋒は引き分けたが、日章学園は中堅、副将と連勝し大将戦を待たずに2回目の優勝を決めた。

女子決勝は、八代白百合学園（熊本）が過去4回の優勝経験をほこる筑紫台（福岡）を1―0で下し、初優勝を果たした。



柔道・男子決勝＝崇徳・米澤直良（上）対東海大学付属相模・下地琉仁



柔道男子優勝＝崇徳（広島）



柔道女子優勝＝富士学苑（山梨）

柔道・男子 崇徳（広島）が12年ぶりの優勝

■柔道の部（男女各16チーム）

1・2年生による団体戦（男子5人制、女子3人制）で優勝が争われた。

男子決勝は、12年ぶり2回目の優勝を狙う崇徳（広島）と同大会2連覇中の東海大学付属相模（神奈川）

の顔合わせ。崇徳が3―0で勝利し、優勝を果たした。

女子決勝は、富士学苑（山梨）と連覇を狙う比叡山（滋賀）が対戦。

1―0の接戦を制して、富士学苑が7年ぶり3回目の優勝を決めた。



3日間を通して熱戦が繰り広げられた



試合会場の国際武道大学3号館体育館(入り口)

【大会結果】

■なぎなた

- ▽男子①鈴木秀岳(埼玉栄)②沖村晴渡(山口・長府)③相澤直生(埼玉栄)、中山旺己(岡山後楽館)

- ▽女子①龍光寺真有(東京・富士)②佐藤さなみ(岡山・美作)③鶴見由依(神奈川大学附属)、東りんみ(鹿児島・川辺)

■剣道

- ▽男子①日章学園(宮崎)②奈良大学附属(奈良)③九州学院(熊本)、本庄第一(埼玉)

- ▽女子①八代白百合学園(熊本)②筑紫台(福岡)③東奥義塾(青森)、明豊(大分)

■柔道

- ▽男子①崇徳(広島)②東海大学付属相模(神奈川)③埼玉栄(埼玉)、大成(愛知)

- ▽女子①富士学苑(山梨)②比叡山(滋賀)③敬愛(福岡)、渋谷教育学園渋谷(東京)

日本武道館の単行本



剣道の文化誌 明治大学教授 長尾 進 著
四六判・上製・480頁・定価2,640円

本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いながら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には剣道を改めて見直すきっかけとして、剣道をあまりご存知ない方には剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとして、ぜひ一読を。



マンガ・日本武道風土記 漫画家・別府大学客員教授 田代しんたろう 著
B5判・並製・248頁・定価1,100円

全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界で日本各地をめぐるみては。



剣道 その歴史と技法 埼玉大学名誉教授 大保木輝雄 著
四六判・上製・516頁・定価2,640円

本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るまでの剣道の歴史的発展の経緯を示した。戦国期以前の剣術の有り様を認識した上で改めて各時代の流れに沿った剣道史を考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後5年のときを経てついに単行本化。



死ぬまで弓道 弓道教士七段 小牧佳世 著
四六判・上製・342頁・定価2,640円

競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その8カ月後に弓道を再開し、わずか2年後に皇后盃で十射管中、優勝を果たした。本書では激動の自信を記し、弓のあり方や「早気」など弓道家の誰もが陥る課題などを模索する。死の淵を覗き、現在も全身全霊で弓を引き続ける筆者だからこそ記せた弓道伝記かつエッセイ



柔道 その歴史と技法 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著
四六判・上製・330頁・定価2,640円

柔道の技法が、どのように形づくられてきたのかを、体術の起こり、柔術諸流派の歴史に遡り、丁寧にひもとく。さらには、全日本選手権やオリンピックをはじめとした各種競技大会にみられる技法を分析し、今後の課題を探る。



学校武道の歴史を辿る 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著
四六判・上製・354頁・定価2,640円

明治維新を迎え、武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度の中に組み込まれ、発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え、「格技」として復活。平成24年度には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。



空手道 その歴史と技法 小山正辰・和田光二・嘉手刈徹 著
四六判・上製・568頁・定価2,640円

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇系剛柔流の小山正辰氏、首里系松濤館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手刈徹氏の共同執筆で重層的に紐解く。嘉手刈氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長順の最新の事実、小山・和田の高世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一篇。

ご注文・お問い合わせ
 (公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>

武道演武大会

アンケート調査結果について

シンガポール共和国派遣日本武道代表团

シンガポール共和国派遣日本武道代表团は、昨年11月30日にシンガポール・スポーツハブOBCアリーナで武道演武大会を開催した。大会開催にあたり的確な情報収集と今後の諸事業に活かすことを目的に、事前に参加登録アンケートを、大会当日には来場者アンケートを実施した。

【参加登録アンケート調査概要】

■本派遣事業専用公式Facebookなどを通じて参加登録を募ったところ912の登録があった。

①職業

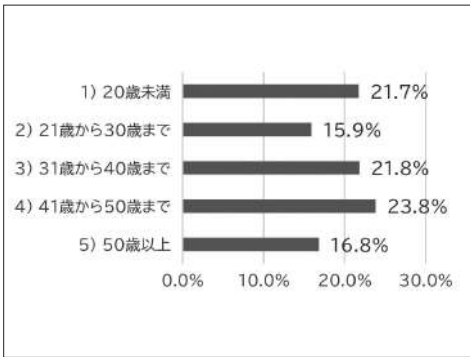
最も多かったのは「社会人」の62・2%、次いで「学生」が29・1%、無職（主婦、退職者など）が7・4%であった。

②年齢

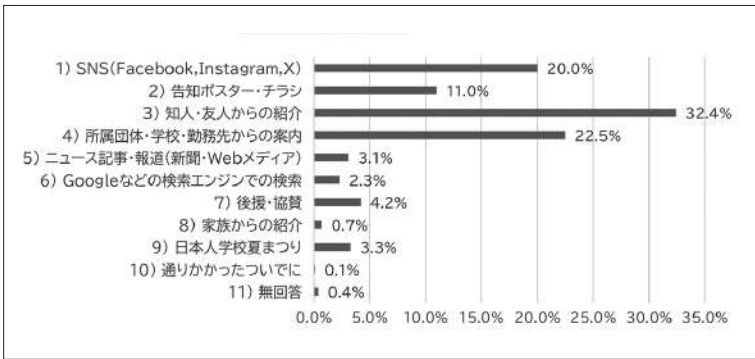
最も多かったのは「41歳から50歳まで」の23・8%、次いで「31歳から40歳まで」が21・8%、「20歳未満」が21・7%、「50歳以上」が16・8%、「21歳から30歳まで」が15・9%で、どの世代からも登録があった。



武道演武大会を本派遣事業専用公式Facebookでも紹介



②年齢



③本イベントをどのように知りましたか

③本イベントをどのように知りましたか

「知人・友人からの紹介」が32・4%、「所属団体・学校・勤務先からの案内」が22・5%、「SNS (Facebook・Instagram・X)」が20・0%、この三つで全体の約75%を占めた。

【来場者アンケート調査概要】

※一部抜粋して掲載

■QRコードを用いた調査を行ったところ29%の回答があった。

①年代

「20代」が27・4%と最も多く、次いで「30代」が23・0%、「40代」が18・9%、「10代以下」が17・6%と若い世代が多い結果となった。

②どのようなことに興味があり、どのような理由で来場しましたか（複数回答可）

最も多かった回答は「格闘技」で25・1%、次いで「武道（BUDO）」が24・8%、「日本・日本文化」が21・7%であった。また、「その他」（自由記述）では「自分の武道系Instagramで武道（BUDO）を広めるために紹介したいと思ったから」「相撲が見たいから」などの回答が寄せられた。

③武道経験はありますか

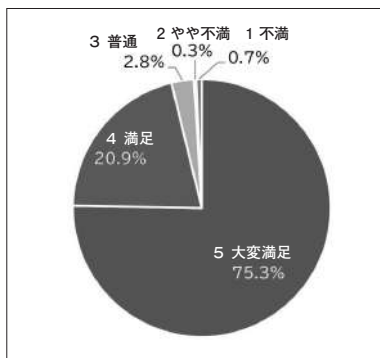
「なし」が39・9%、「あり」が60・1%であった。「あり」と回答した人の武道種目の内訳（複数種目を含む）は、「合気道」が最も多く26・3%、次いで「空手道」が21・1%、「剣道」が13・4%、「柔道」



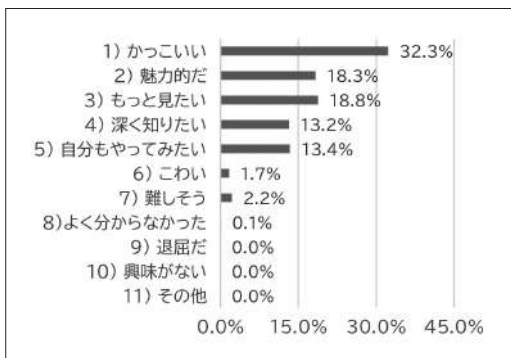
②どのようなことに興味があり、どのような理由で来場しましたか



①年代



⑥イベントの満足度はどうでしたか



④武道演武を見た感想を教えてください

が12・9%であった。
④ 武道演武を見た感想を教えてください
さい(複数回答可)
「カッコいい」が最も多く32・3%、
「もっと見たい」が18・8%、「魅力

⑥ イベントの満足度はどうでしたか
5段階評価で、「5・大変満足」

想が寄せられた。
族で楽しめる内容だった」などの感

「武道経験者にとつても印象深い内容だった」「家

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して

「期待して